

外国人患者受入れ体制整備 地域連携フォーラム(令和4年2月17日)
令和3年度厚生労働省補助事業
「外国人患者受入れに資する医療機関認証制度等推進事業」



地域事情と医療ニーズから学んだ 外国人患者受入れ体制整備の必要性

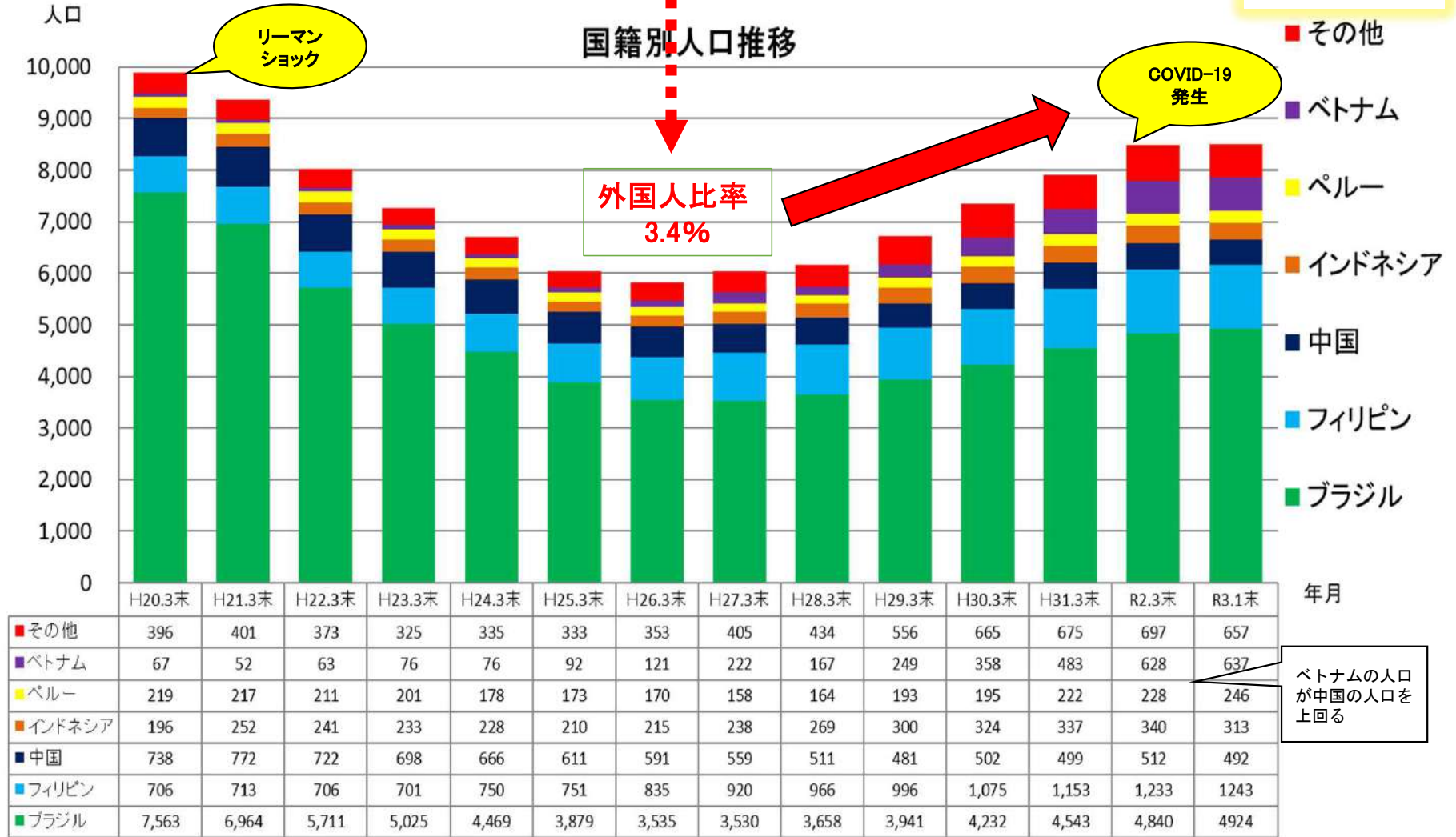


磐田市立総合病院
病院事業管理者兼病院長
鈴木 昌八

磐田市の在留外国人

医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業

外国人比率
5.0%



資料) 磐田市統計情報 令和3年1月末現在



磐田市立総合病院の紹介

(病床数: 500)

平成30年12月: 病院機能評価更新

平成31年2月: 臨床検査部門ISO15189受審

診療科目: 33科
 常勤医師数: 171人(初期研修医31人含む)
 医療通訳者: 3人(1人がコーディネータ兼務)

役割



しっぺい

平成10年5月 新病院稼働

平成11年4月 災害拠点病院

平成15年10月 臨床研修病院

平成19年3月
 地域周産期母子医療センター

平成21年4月 救命救急センター

平成22年4月
 地域がん診療連携拠点病院

平成23年10月 地域医療支援病院

平成27年8月
 外国人患者受入れ拠点病院

平成29年2月
 認知症疾患医療センター

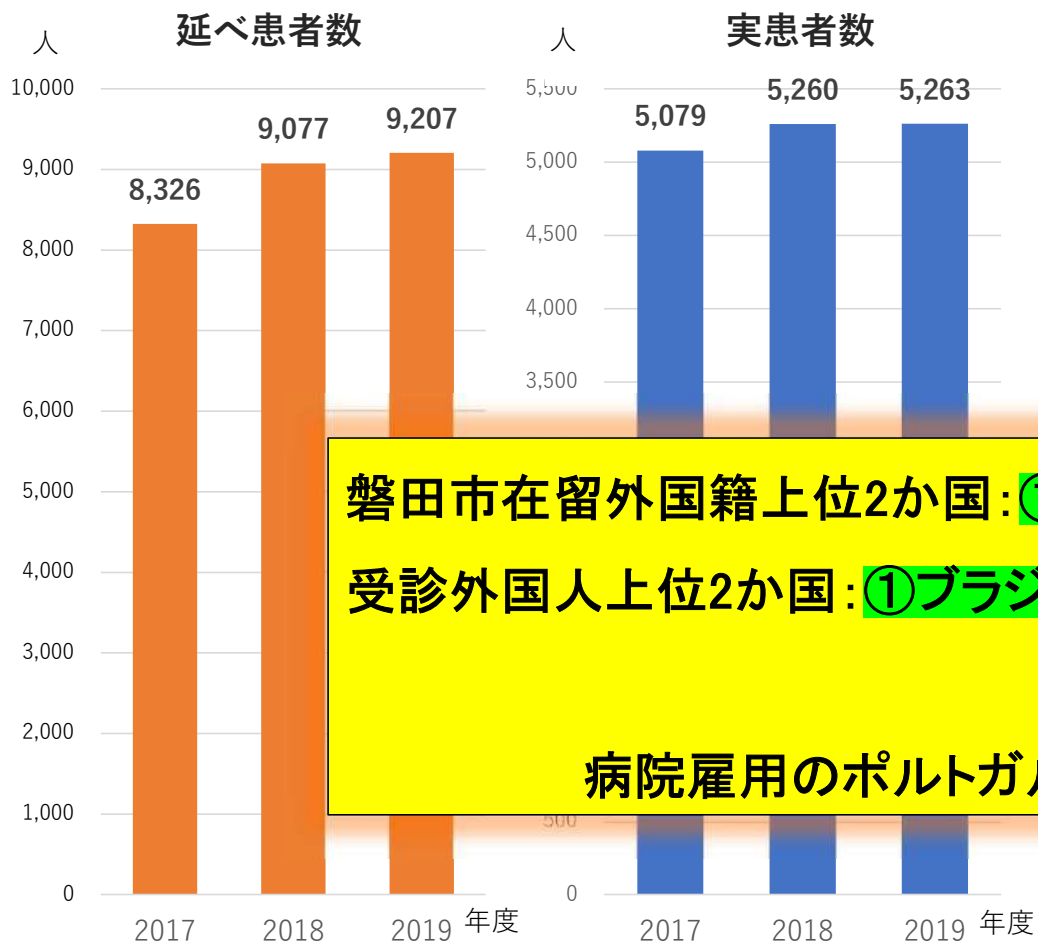
平成30年3月
 外国人患者受入れ医療機関認証
 (JMIP 認証)

令和2年1月
 浜松医大医学科臨床実習受入れ

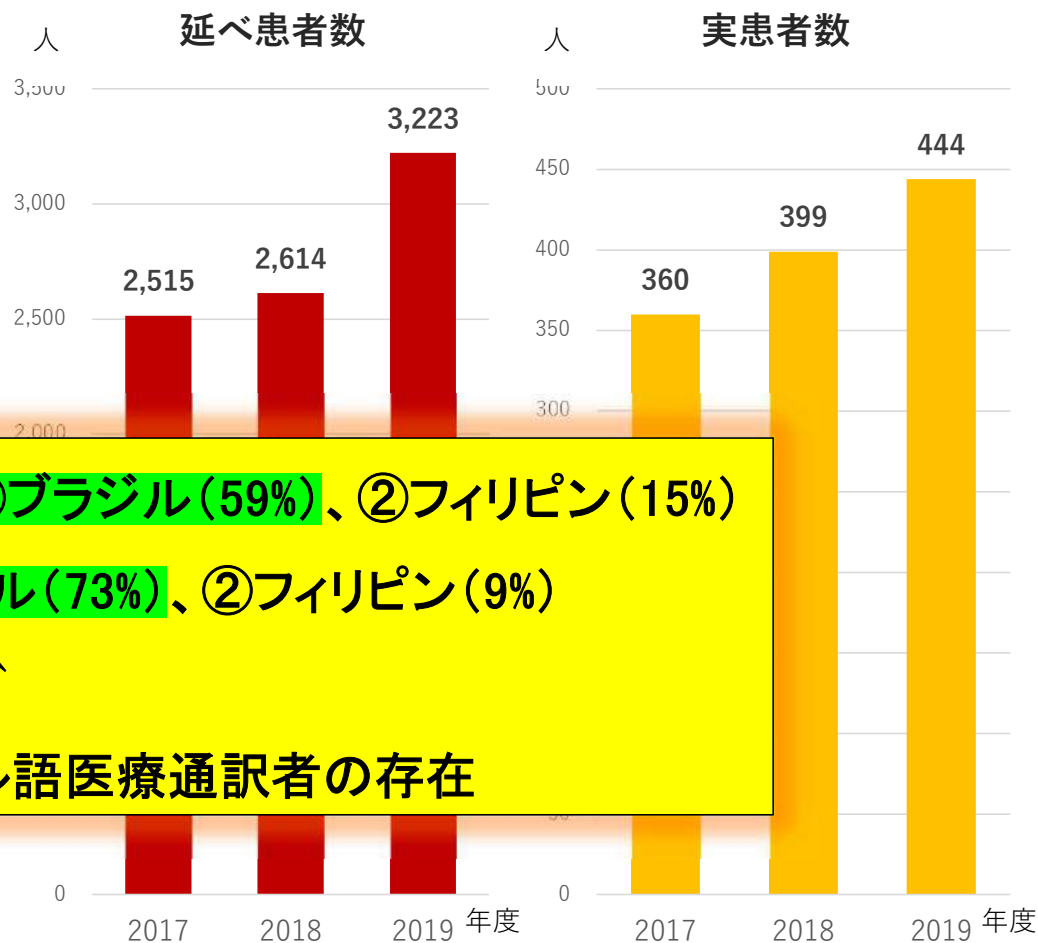
令和3年5月 JMIP 認証更新

外国人患者の診療実績

外来診療の実績



入院診療の実績



磐田市在留外国籍上位2か国: ①ブラジル(59%)、②フィリピン(15%)

受診外国人上位2か国: ①ブラジル(73%)、②フィリピン(9%)



病院雇用のポルトガル語医療通訳者の存在

資料) 国際医療支援室統計

国際医療支援室の設置

平成27年(2015)8月1日:外国人患者受入れ拠点病院に選定
(医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業:厚生労働省)

1. 国際医療支援室の設置(2016年4月～) 室長:医療安全担当副病院長

- 医事課内に国際医療支援室を設置

外国人患者の診療に当たる医療スタッフ等の支援・調整業務

- メンバー:医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・リハビリ技師・MSW・医療通訳
医療コーディネーター・医事課職員

2. 国際医療支援室連絡会(2016年4月～) 事務局:医事課

- 目的

外国人患者対応での課題や問題点の把握

通訳・翻訳業務の実績確認

各年度の事業遂行状況の確認



国際医療支援室の活動の紹介

▶ 職員向け講演会・研修会

- ❖平成28年度 2回
- ❖平成29年度 2回
- ❖平成30年度 2回

▶ コミュニティでの出前講座

- ❖平成28年度 3回
- ❖平成29年度 3回
- ❖令和2年度 2回

▶ クリスマスイベントへの参加（地域とのつながり）

- ❖3階西病棟クリスマス会
- ❖平成29年度クリスマスコンサート

▶ 研究協力

外国人患者・医療者・通訳者におけるリスク・コミュニケーションに関する実証研究
その1：医療機関に雇用（または派遣）されている通訳者介在による臨床結果への影響の可能性（静岡県立大学看護学部 濱井妙子講師：平成28年度～平成30年度）

研修内容

多文化共生
医療通訳者から見た外国人
未収金発生予防
宗教上の留意点 など

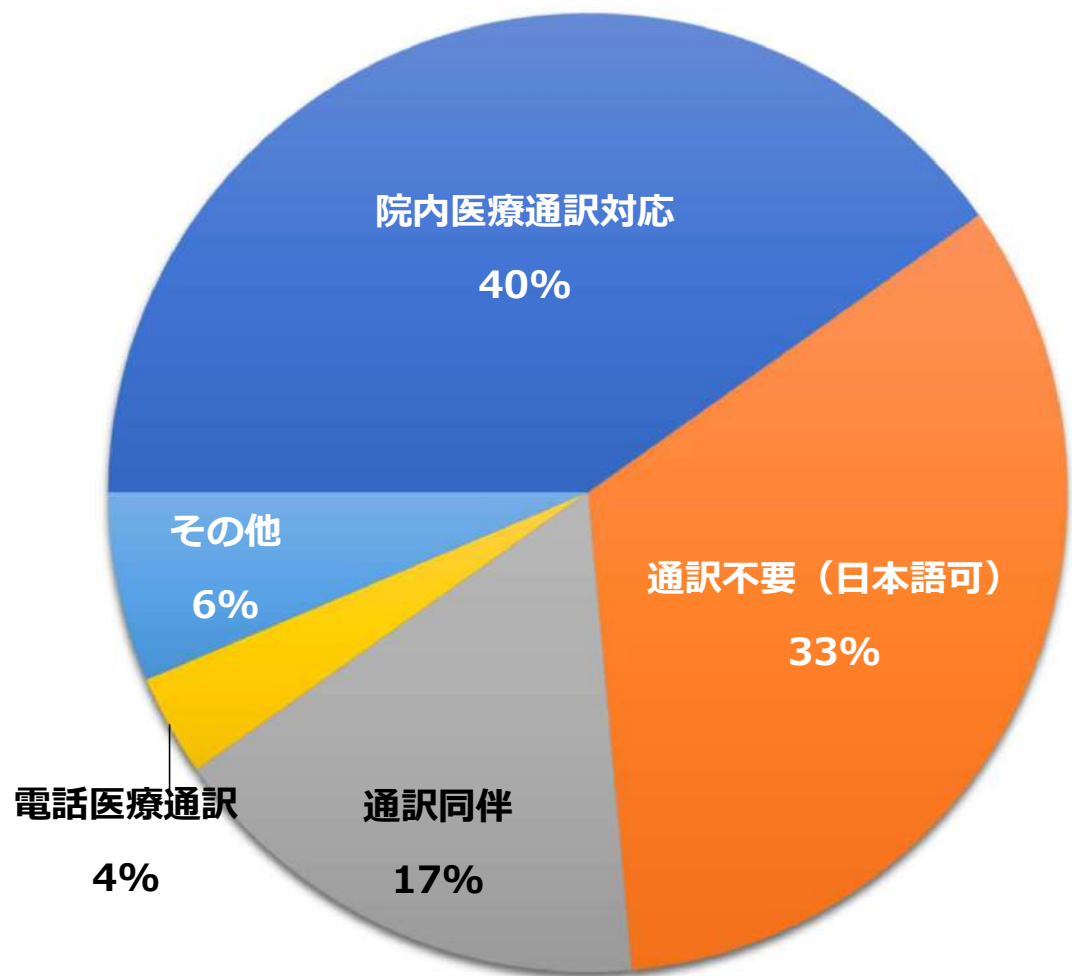
講座内容

日本の医療制度
医療費
未収金について など

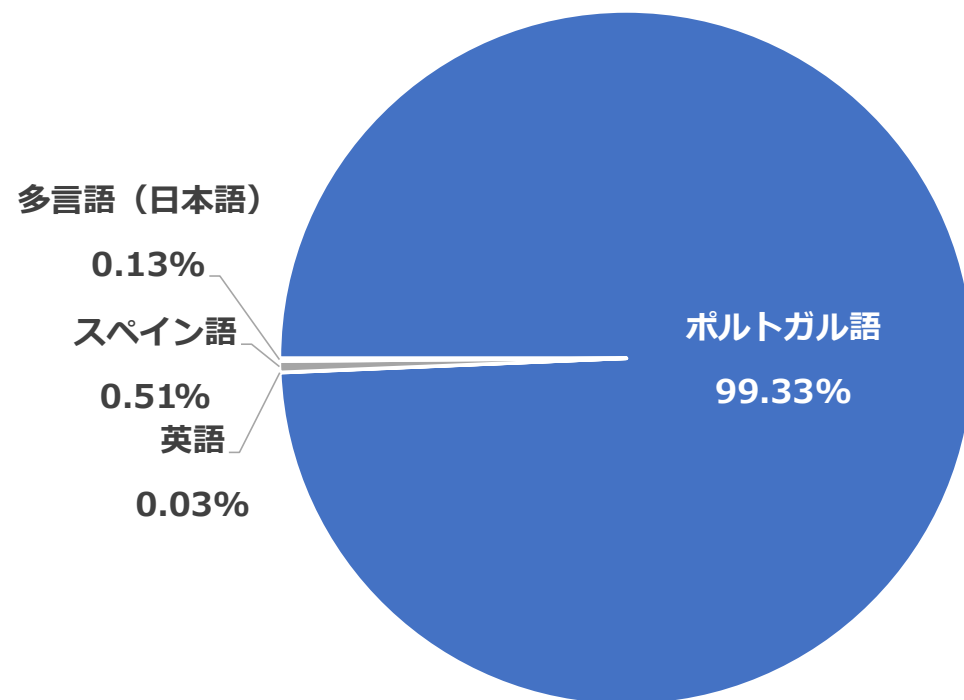


診療現場での医療通訳の対応状況

ポルトガル語対応の医療通訳者：3人



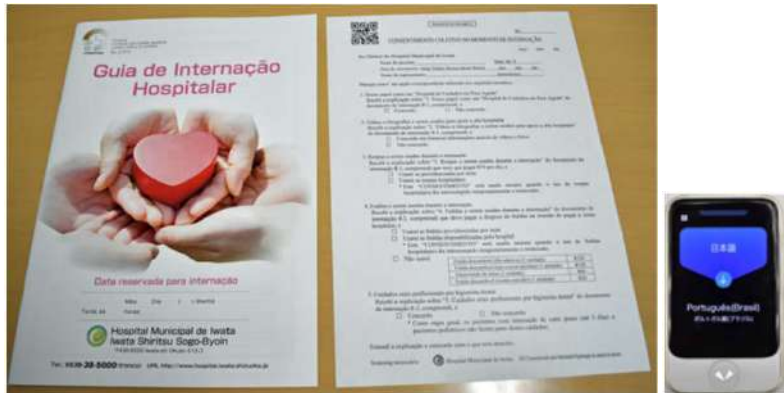
対応言語の内訳



各種コミュニケーションツールの紹介

- ①説明・同意書の多言語対応
- ②携帯通訳・翻訳機

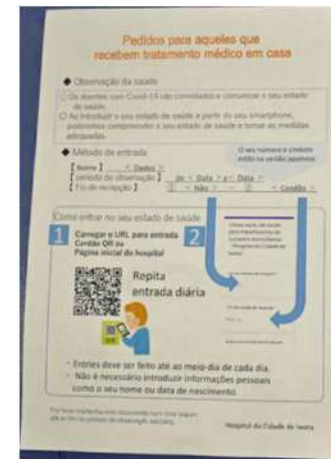
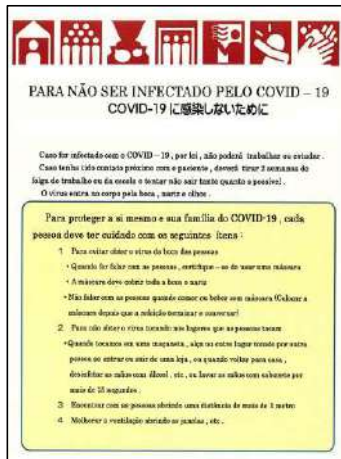
- ③電話医療通訳・ビデオ医療通訳



- ④デジタルサイネージ

COVID-19対応

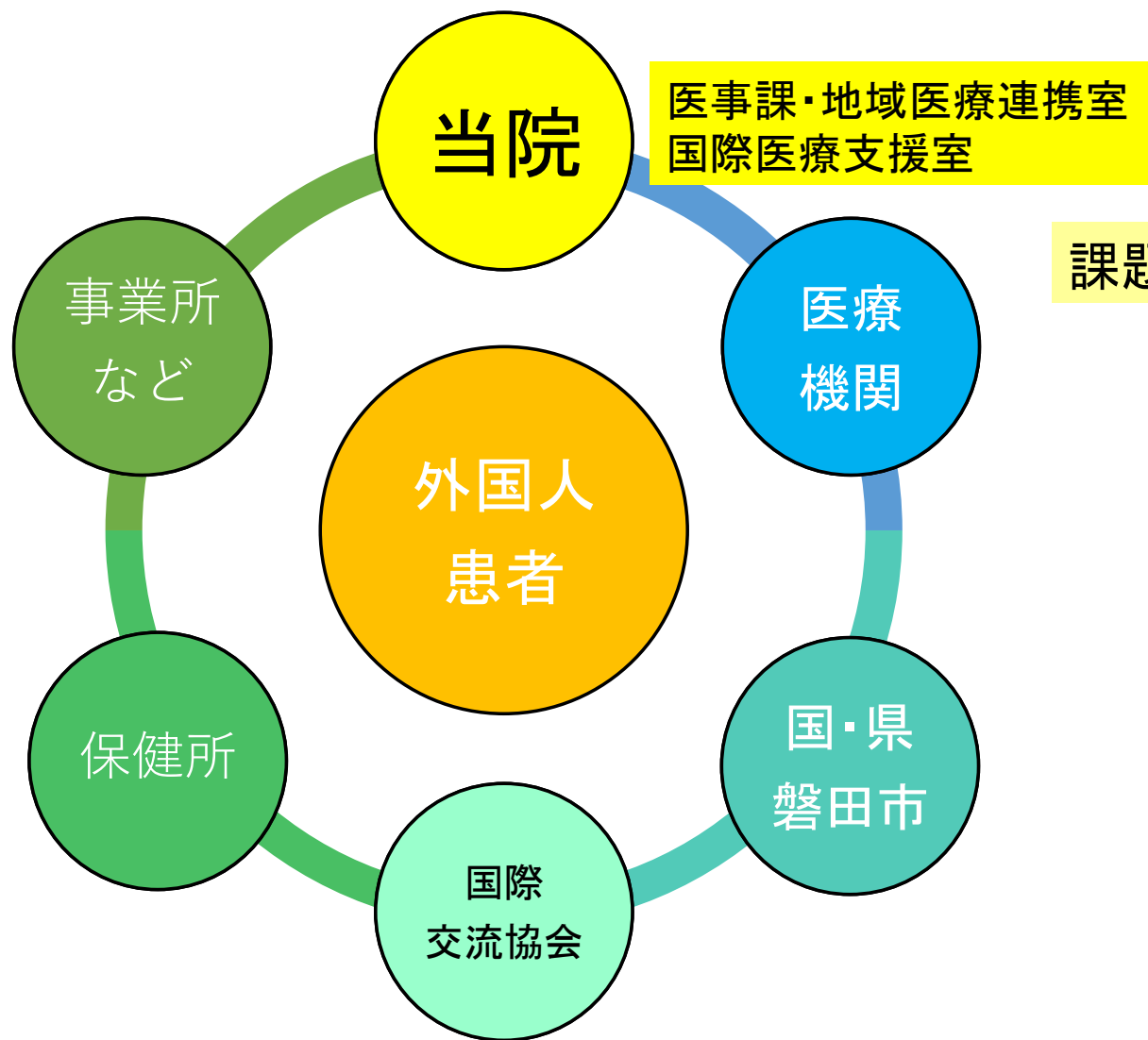
- ⑤健康観察フォーム



外国人患者受入れでの課題と対応策

	課題内容	対応策	連携等
1	外国人患者の増加	医療通訳ツールの増設 (タブレットなど)	院内
2	地域コミュニティとのつながり (コロナ禍で休止状態)	出前講座の再開 院内イベントへの参加	在留外国人 行政 国際交流協会
3	現場の声の把握	職員アンケート(予定) 職員研修	院内
4	未収金対策	多職種による情報収集 多様な支払い方法の提示 未収金回収の業務委託	院内 業務委託先
5	問題事例の共有 同行通訳者によるトラブル 他院で出入禁止となった患者	情報共有による危険予知 同行通訳に関する説明・同意 病院HP上に「お願い文」の掲示	病病連携 行政

課題解決に向けた連携体制



課題によっては時に母国側の支援も！

コロナ予防周知協力訴え

磐田市立総合病院 浜松ブラジル総領事館に



新型コロナウイルス対策に関する意見交換を行う鈴木病院長ら（浜松市中区の在浜松ブラジル総領事館）

静岡新聞社提供

まとめ

1. コロナ禍の鎖国状態はこの先徐々に解かれ、国内外の経済活動やインバウンド需要が回復していくはずである。自院の置かれた環境や医療機能によって、在留外国人や訪日旅行者の増加を見据えた外国人患者への対策や準備を進めておくことが望ましい。
2. 文化や慣習の異なる外国人患者にとって、言葉の違いで伝えられない・伝わらないもどかしさは大きなストレスになる。
外国人患者受入れ医療機関では、コミュニケーションツールの導入とその利活用が必須である。また、個々の状況に応じてチームで早期介入することが未収金発生等の被害を最小限に抑える重要なポイントである。